

インプラント治療をより安全で合理的に進めるために ラボサイドからの提案

抄録：

インプラント治療は、予知性の高い有意義な治療法として認知されてきたが、一昨年のテレビ報道以来、患者様のインプラント治療に対する安全性、予知性そして経済性についての注目度は以前にも増して内容が深く濃くなってきた。すなわち漠然とインプラント治療を選択するのではなく、どこでどの様な治療を受けるかといった内容に患者様の考え方が変わってきた。いわゆる外科主導型治療や補綴主導型治療から患者主導型治療への移行である。

ところが、ラボサイドでこれに対応するには、単純にセットアップ WaxUp 等のシュミレーションを行ったうえで、従来型のステントを提供しても執刀医の熟練により結果が左右され上部構造の製作自体が困難でリカバリーに追われることが多くインプラント治療の難易度を必要以上に高くしている。

演者のラボでは、これに対処するため Ope 準備のみならず治療計画の立案、説明のツールとして 3D プランニングツール (NobelGuide&SimPlant) を導入し、また、上部構造製作のために CAD/CAM スキャナーを導入したことで、術者の熟練や患者様の要望に合わせて治療手順や上部構造を組み替えることができ、良好な結果を収めている。

また、ガイドオペについては、インプラント学会等でも賛成派、反対派が分かれて議論がなされているが、演者は既に 550 症例以上のサージカルステントを供給し、その上部構造の装着も骨結合確認後、簡便な手順でスクリーリテインで行ってきた、その結果から実感としてガイドオペの優位性は確信しているが、そこには守らないといけないうポイントがいくつかある。

今回の、セミナーでは演者のラボで行っている、3D プランニングツールを使った歯科医師との打ち合わせの方法や、Ope 準備、そして簡便にスクリーリテインの上部構造を製作する方法についてご紹介し、臨床的なポイントについて考察してみたいと考えております。

略歴 岡崎秀徳 (おかざきひでのり)

1982 年 丸亀高校卒業

1984 年 大阪歯科学院専門学校卒業

1985 年 大阪歯科学院専門学校歯科技工専攻科卒業

1985 年 デンタルスタジオ国分寺開業

1992 年 有限会社ディエスケイへ組織変更

日本歯科技工学会認定士

日本口腔インプラント学会インプラント専門歯科技工士